

鳥栖市市制施行
70 周年記念誌

70th

Anniversary

目 次

- 3 市制施行70周年を迎えて
- 4 市制施行70周年について
- 5 市制施行70周年記念式典
- 6～15 市制施行70周年記念事業
- 16～29 鳥栖市の歩み
- 30～31 鳥栖市内の心揺さぶるエモい写真集、鳥栖市の人口





市制施行70周年を迎えて

鳥栖市長 向門 慶人

鳥栖市は令和6年4月1日に市制施行70周年の節目を迎えました。この節目を迎えられることに感謝し、市民の皆さまと共に祝いできたことを大変うれしく思います。

この70年間、九州随一の地理的優位性を最大限に生かした企業誘致力を筆頭に、交通の要衝として着実に発展してまいりました。昭和38年分譲開始の轟木工業団地から始まり、近年の新産業集積エリア鳥栖に至るまで、7つの産業団地が分譲されましたが、ありがたいことに、いずれも盛況につき完売しております。市内誘致企業につきましても200社を超えており、さらなる発展を続けています。

スポーツ・文化の面においても、本市には独自の魅力があります。スポーツでは、サガン鳥栖とSAGA久光スプリングスという日本トップリーグで活躍する2つのプロスポーツチームのホームタウンであり、国内最高峰のプレーを身近で体感できます。令和5年春に完成したSAGA久光スプリングスの新たな練習拠点であるサロンパス®アリーナは、チームが主に使用するメインアリーナのみならず、市民にも開放されるサブアリーナを備えており、駅前不動産スタジアムと並ぶ本市の新たなシンボルとして誕生しました。また、文化の面では、九州における交通結節点である好立地から、著名なアーティストのコンサートや舞台が、九州で唯一、本市のみで開催されることも珍しくありません。

加えて、本市は多くの人にも選ばれる活力あふれる都市として、令和2年国勢調査において本市の人口増加率は県内1位となっており、地方で人口減少が進む中にもあっても、今後も人口増加が見込まれています。さまざまな角度から全国の自治体の住みよさを評価したランキングなどにおいても、本市は九州内で常に上位にランクインしており、これからも選ばれ続けるために、より一層の飛躍を目指してまいります。

このたび、市制施行から70年の歩みや実施したさまざまな記念事業を写真を中心に振り返る記念誌を発行しました。この記念誌を通じて、これまでの本市を創り上げた先人たちへ思いを馳せるきっかけを持っていただけるものとなり、これからの未来を魅力的なものに飛躍させるきっかけになることを期待しています。

市制施行70周年について

昭和29年、2町3村（鳥栖町、田代町、基里村、麓村、旭村）の合併により鳥栖市が誕生し、令和6年4月1日で市制施行70周年を迎えました。

市制施行70周年という節目をきっかけに、これまでの歴史を築き上げてきた先人たちへ思いを馳せ、鳥栖市に関わる全ての人々と共に、この節目を楽しみながら祝い、そして、鳥栖市と共にこれから生きていく将来世代のために、さらなるまちの魅力向上と、よりよい未来への飛躍につながるような記念事業を実施しました。

70周年記念事業のテーマ

『はなまる・はなまる・つなぐ鳥栖』

『はなまる』は「素晴らしい」「よくがんばりました」といった意味合いで用いられる、身近で親しみのある言葉です。誰しも一度は、学校の先生にはなまるをもらって誇らしかった経験や、はなまるを目指して一生懸命頑張った思い出などがあるのではないのでしょうか。

誕生から70年を迎えた鳥栖市も、先人たちのさまざまなはなまるエピソードと共に発展し、これまでの歴史が築き上げられてきました。そして、現代の私たちは、新たなはなまるエピソードを未来へ残し、発展の歴史をつないでいかなければなりません。そんな思いをテーマに込めました。

また、時間的なつながりだけでなく、鳥栖市は古くから九州における交通結節点として、人、もの、文化など、さまざまな事柄を『つなぐ』役割を担ってきました。これからもその特長を生かし、九州における唯一無二のまちとして、さらなる存在感を発揮していくという意味も込めています。

記念事業のシンボルマーク

『はなまる』

テーマに合わせ、シンボルマーク『はなまる』をデザインしました。

世代を問わず、親しみと愛着が持てるキャッチーなもので『70周年記念』を端的に表しています。外側の丸矢印は、九州陸路交通結節点の『つなぐ』鳥栖を表しています。九州の心臓部的役割を担う鳥栖市から各地へ延伸する陸路を動脈と静脈に見立て、鳥栖市を介しさまざまな循環が生まれるイメージを表しました。

『はなまる』で連想される色は、先生が丸付けで使う赤ペンや朱色の墨汁、スタンプ朱肉など、いわゆる『朱色』ではないでしょうか。一方、動脈で連想されるのは、鮮やかな『紅色』です。そして、鳥栖市で赤色といえば、市の木であるモチノキがたわわに実らせる赤い実です。これら3種の赤色を混ぜ合わせた『トスレッド』を配色の基調とし、鳥栖市の広報媒体である『市報とす』や旧庁舎へ掲げられた市章の色として馴染み深い青色を『トスブルー』として使用しています。



(シンボルマーク) はなまる

市制施行70周年 記念式典

6月2日(日)、市民文化会館で鳥栖市市制施行70周年記念式典を開催しました。

第1部は、特別自治功労表彰、鳥栖市市制施行70周年記念感謝状の贈呈を行い、第2部は、鳥栖市の高校生と鳥栖市で青春時代を過ごした俳優の木下晴香さん、お笑い芸人・俳優のオラキオさんと向門市長による『青春とまちの関係性』をテーマにしたシンポジウムを行いました。



■特別自治功労表彰

市勢発展の主軸となって活躍された歴代の市議会議員に贈りました(順不同・敬称略)。

✿ 齊藤正治(第23・25代市議会議員)、中村直人(第24代市議会議員)

■鳥栖市市制施行70周年記念感謝状

永年にわたり、スポーツ・文化行政ならびに市の発展に大きく貢献があった人・団体に贈りました(順不同・敬称略)。

✿ 公益財団法人二又教育文化振興奨学会(文化芸術振興へ貢献)、
特定非営利活動法人市村自然塾九州(青少年健全育成へ貢献)、緒方孝市(青少年健全育成へ貢献)



◀ 第2部の70周年記念シンポジウムの様子。市民の皆さんから寄せられた写真やゲスト2人の幼少期や高校時代の写真、高校生たちのおすすめスポットなどに対して、思い出話などを交えながら語り合い、和やかな雰囲気が進められました

今回の式典は、市内の高校3校の協力も得て、舞台横断幕の題字を鳥栖高校書道部の皆さん、受賞者への記念品の一つを鳥栖工業高校建築部の皆さんが制作。式典当日は、鳥栖商業高校吹奏楽部の皆さんがウェルカムコンサートで花を添えました。

また、鳥栖市をホームタウンとする2つのプロスポーツチーム、SAGA久光スプリングスとサガン鳥栖の70周年記念バージョンの特別ユニフォームや、市民の皆さんから寄せられた『鳥栖市内の心揺さぶる風景』を同館ホワイエに展示。友好交流都市であるドイツ・ツァイツ市からのお祝いのメッセージ動画も放映しました。



70周年記念事業

市制施行70周年を記念して、さまざまな記念事業を実施しました。

70周年記念事業

春

Spring

この時期の記念事業

- ・キッズミュージカルTOSU 20周年記念公演(4/13・14)
- ・タイムカプセル開封式(5/1)
- ・高校野球ななまる交流試合(5/3～5)
- ・第10回室内楽の杜『子どものための音楽祭』(5/5)
- ・第41回鳥栖市制施行30周年記念市内小学生バレーボール大会(5/19)
- ・鳥栖歴史文化交流展示室オープン(5/21)



キッズミュージカルTOSU 20周年記念公演

小学生から高校生までのこどもたちが演じる『キッズミュージカルTOSU』の20周年記念公演第3弾『夢のカケラ』が市民文化会館で開催されました。同ミュージカルの卒業生も出演し、心の込もった演技と圧巻のパフォーマンスが披露され、観客から万雷の拍手が送られました。

タイムカプセル開封式

『20年の時空を超えて、いま、大切なあなたへ』

平成16年に市制施行50周年を記念して実施したタイムカプセル事業。その開封式を市役所で行い、タイムカプセルの制作者で当時の市長とタイムカプセルに封をした魚蓮坊窯の松尾伊知郎さんが、向門市長と一緒にタイムカプセルを開封しました。



▲式には20年前の最初の投函者である近藤美香さん、式の横断幕を書いた鳥栖高校書道部の2人も出席。また、サガン鳥栖OBで市特命応援団長の高橋義希さん、SAGA久光スプリングスOGの石井優希さんが特別ゲストとして参加しました



高校野球ななま交流試合

市内高校3校の野球部と九州強豪校などの交流試合を、市民球場と市内各高校のグラウンドで開催。市外からは福岡県、長崎県、熊本県、宮崎県、沖縄県の計11校が参加し、普段なかなか戦う機会がない相手と貴重な時間を共有しました。



第41回鳥栖市制施行30周年記念 市内小学生バレーボール大会

市制施行30周年時に始まった市内小学生バレーボール大会を、市制施行70周年を記念してサロンパス®アリーナで開催。こどもたちは普段なかなか経験することができないタラフレックス(床材)のコートでの試合で、声を掛け合いながら精一杯プレーしました。



第10回室内楽の杜 『子どものための音楽祭』

0歳から入場可能な音楽イベント『子どものための音楽祭』を市民文化会館で開催。演奏会や絵本の読み聞かせ、楽器作り体験などさまざまな催しを行った他、詩人で画家の詩太さんによるライブペイントも行われ、こどもたちは生き生きとした表情でイベントを楽しんでいました。



『鳥栖歴史文化交流展示室』がオープン

『人・もの・文化の結節点 鳥栖』をテーマにした鳥栖市の歴史や文化を紹介する『鳥栖歴史文化交流展示室』をサンメッセ鳥栖に開設。展示室にはプロジェクションマッピングをはじめとした映像、文化財などが展示され、ホールには鳥栖の民俗芸能やまつりを紹介する展示コーナー、床面には5メートル四方の鳥栖市を中心とした広域な空中写真がラッピングされています。

写真(右上)鳥栖市の地形模型に投影されるプロジェクションマッピングに見入る来場者(右中)発掘調査で見つかったものや地域に残された文化財の展示(右下)民俗芸能やまつりを紹介する展示コーナー



70周年記念事業

夏
Summer

この時期の記念事業

- ・子どもサポート講演会(7/6)
- ・鳥栖山笠(7/20・21)
- ・まつり鳥栖(7/28)
- ・市民ピアノリレーコンサート(8/3)
- ・夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会(8/6)
- ・パスタとワインと音楽(8/11)
- ・市制施行70周年記念鳥栖市民DAY(サガン鳥栖ホームゲーム)(8/11)
- ・ピアノ『フツペル』と共に(8/15)
- ・ミニ銅鑼づくり(8/20~24)
- ・まち協フェスタ(9/29)



子どもサポート講演会

家庭・地域・学校が共通した認識を持ち、これからの子どもたちの育成を共に取り組んでいくことを目的に、信州大学医学部教授・本田秀夫さんを講師に迎え『子どもたちが健やかに育つ子育てのヒント』を演題として講演を市民文化会館で行いました。



鳥栖山笠

昭和3年に始まった鳥栖山笠。6基の山車と2基の子ども山が、威勢のいい掛け声とともに市街地を駆け抜けました。6基の山車は、市制施行70周年を記念して山車の幕を新調しました。



まつり鳥栖

『夏・みんなの架け橋』をテーマに本通筋商店街などで開催され、ステージイベントやスポーツ体験、パレードや市民総踊りが行われました。市制施行70周年を記念した花火の打ち上げもあり、夏の夜空を彩りました。



スタインウェイを弾いてみよう! 公益財団法人二又教育文化振興奨学会 presents 市民ピアノリレーコンサート

ピアノが大好きな皆さんの演奏と交流の場として市民文化会館で開催。こどもから大人まで46組48人が参加し、ポップスやクラシックなどさまざまな演目で個性豊かな演奏が披露されました。



夏期巡回ラジオ体操 みんなの体操会

市陸上競技場で開催されたラジオ体操。市内外から約500人が訪れ、ラジオを通して鳥栖市から全国へ元気が届けられました。



パスタとワインと音楽

鳥栖駅西広場で開催された食と音楽の祭典。鳥栖市出身で『パスタ・ワールド・チャンピオンシップ2019』で世界一に輝いた弓削啓太さんやソムリエの大沢道明さん、お笑い芸人・オラキオさんが登場。先着で弓削さんのパスタなどが無料でふるまわれました。



市制施行70周年記念鳥栖市民DAY

鳥栖市民DAYとして開催された浦和レッズ戦では、佐賀県・鳥栖市・アサヒグループジャパンの共同プロジェクトとして『森のタンブラー』の販売が行われた他、SAGA久光スプリングスOGの石井優希さんと行くサガン鳥栖応援ツアーも開催されました。



ピアノ『フッペル』と共に

終戦記念日に合わせてサンメッセ鳥栖で開催されたピアノ『フッペル』と共に。第1部ではフッペル鳥栖ピアノコンクール2023出場者・岡芽衣菜さんや希望者による演奏が披露され、第2部では元映画『月光の夏』製作委員会事務局長の齊藤美代子さんをパネリストに迎えた記念講演を行い、その後、映画『月光の夏』の上映を行いました。

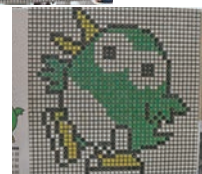


どうたく ミニ銅鐸づくり

夏休みもののづくり体験としてミニ銅鐸づくりをサンメッセ鳥栖で開催。国史跡・安永田遺跡出土の銅鐸鋳型から復元した銅鐸のミニチュア鋳型を使って鋳造体験を行いました。

まち協フェスタ

市と市内まちづくり推進協議会（まち協）が共同で制作したペットボトルキャップアートの披露や、各地区で活動する団体のステージ発表、市制施行70周年関連の展示などをフレスポ鳥栖で行いました。



70周年記念事業

秋

Autumn

この時期の記念事業

- ・市制施行70周年記念鳥栖市民応援DAY(SAGA久光スプリングスホームゲーム)(10/13)
- ・THE PREMIUM らぁ麺 FESTA(10/19・20)
- ・とす長崎街道まつり(10/20)
- ・市民公開講座『お互い様のまちづくり』(10/20)
- ・フッペル鳥栖ピアノコンクール(11/2~4、12/7・8)
- ・佐賀競馬タイアップ『70周年記念レース』(11/4)
- ・鳥栖市民文化祭～とすフェス～(11/9・10・16)
- ・花とみどりの祭り(11/9)
- ・コンセール・エクラタン福岡 鳥栖公演(11/23)
- ・ハートライトフェスタ2024(11/23～1/4)
- ・勝尾城筑紫氏遺跡見学会(11/24)



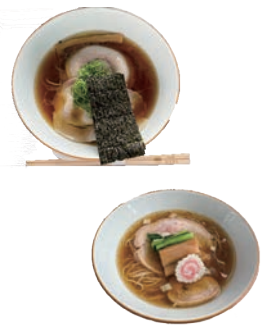
市制施行70周年記念鳥栖市民応援DAY

鳥栖市民応援DAYとして開催されたKUROBEアクアフェアリーズ戦では、鳥栖市民の無料招待も行い、新リーグの開幕戦を市民一丸となって応援しました。



THE PREMIUM らぁ麺 FESTA

『らぁ麺の鬼』と呼ばれた佐野実氏の没後10年という節目の年、佐野氏をリスペクトする有名ラーメン店9店舗が全国から鳥栖(駅前不動産スタジアム)へ集結。自慢の1杯が振る舞われました。



佐賀競馬『鳥栖市市制施行70周年記念 2024九州産グランプリ』

鳥栖市にある佐賀競馬において、鳥栖市市制施行70周年記念2024九州産グランプリが開催されました。

鳥栖市民文化祭～とすフェス～

グループ対抗歌合戦が数年ぶりに復活!!参加者たちは市制施行70周年の『70』にちなんだ選曲や構成でステージを盛り上げました。また、お菓子の家の展示や市内高校生が書道や吹奏楽の生演奏を披露しました。





花とみどりの祭り

市民公園モニュメント広場で『花とみどりの祭り』を開催し、記念植樹や植樹体験、園芸教室、花苗・苗木の無料配布などを行いました。また、市制施行70周年を記念して会場内が花で装飾され、プランターで作成した花文字の展示も行われました。

ハートライトフェスタ2024

総電球数20万球の光が中央公園一帯を照らすハートライトフェスタ。点灯式のステージや公園の池に浮かぶ装飾には、市制施行70周年のシンボルマークである『はななまる』や『70』が施されました。



かつのおじょう

勝尾城筑紫氏遺跡見学会

国史跡『勝尾城筑紫氏遺跡』の秋の見学会を開催し、参加者はボランティアガイドの案内で勝尾城筑紫氏遺跡の中にある『葛籠城』を巡りました。また、今年は大分県の『豊後大友宗麟鉄砲隊』による火縄銃演舞や甲冑試着体験なども実施しました。



この時期の記念事業

- ・佐賀新聞移動編集局(12/8～15)
- ・祭 かつて鉄道の街であった鳥栖(12/22～26)
- ・教科『日本語』講演会(1/9)
- ・市民公開講座『みんなで考える認知症』(1/18)
- ・鳥栖市ロードレース大会(1/19)
- ・男女共同参画フォーラム(1/26)
- ・とす弥生まつり(3/30)



佐賀新聞移動編集局『地域のチカラ』

12月8日から15日まで、佐賀新聞移動編集局『地域のチカラ』で鳥栖市が重点報道されました。また、これに合わせて鳥栖市の歩みを新聞や写真で振り返る『佐賀新聞で見る鳥栖市展』が市役所で行われ、紙面や写真など約90点が展示されました。



祭 かつて鉄道の街であった鳥栖

鳥栖駅西側の鳥栖電力区・鳥栖信号通信区で鳥栖駅鉄道記念博物館『祭 かつて鉄道の街であった鳥栖』が開催され、鉄道模型を走らせる大型レイアウトの展示や鳥栖駅の歴史を振り返る写真展、鉄道グッズの展示などが行われ、県内外から多くの人が訪れました。



第63回鳥栖市祝成人ロードレース大会・ 第37回高校生鳥栖10キロロードレース大会

鳥栖市ロードレース大会が駅前不動産スタジアム周辺で開催され、1,117人のランナーが力走しました。今大会は、市制施行70周年を記念し、鳥栖市出身で箱根駅伝や都道府県対抗男子駅伝などで活躍した飛松誠さんをゲストランナーとして招待しました。



70周年記念事業

プレ事業・PR事業

NHKのど自慢 in 鳥栖

令和5年9月17日、市民文化会館で『NHKのど自慢』が開催されました。令和6年度の市制施行70周年に向けたプレ事業として実施し、応募総数604組から予選を通過した20組が出場。ゲストとして市川由紀乃さんとMAXの皆さんが登場し、各出場者の生き生きとした歌声が会場に響き渡り、大いに盛り上がりしました。



PR事業

各種記念事業を広く市民に周知し、市内の祝賀機運を盛り上げるとともに、市外へ向けて広く鳥栖市のPRを行いました。



▲市庁舎内にペナントと卓上のぼり旗を掲示

公用車にPRマグネットシートを掲示



◀SAGA久光スプリングスとサガン鳥栖の応援機運を高める目的で鳥栖本通筋商店街に設置しているバナーフラッグを、市制施行70周年記念仕様に

▲市内外の人が頻繁に往来するJR鳥栖駅前、国道3号沿い、県道17号上、市民公園入口に70周年のPR横断幕を設置

70周年記念事業

市民文化会館 イベント・コンサート

記念事業一覧

- ・横山幸雄の『ショパン物語』(5/19)
- ・Novelbright LIVE TOUR 2024～CIRCUS～(6/16)
- ・『なごり雪』50周年スペシャル 伊勢正三&イルカ コンサート(7/13)
- ・ものまねレボリューション! 2人のビッグショー(7/21)
- ・優秀映画鑑賞推進事業(7/25・26)
- ・祝襲名! 江戸家猫八とゆかいな仲間たち(8/4)
- ・日本伝統芸能×サーカス 線香花火(8/25)
- ・ウルフルズ ライブツアー2024 ツーツーウラウラツアー シーズン1(8/31)
- ・さらば青春の光 ステゴロツアー2024(11/24)
- ・前川清ファミリーコンサート(11/28)
- ・森山良子コンサートツアー ～My Story～2024(12/21)
- ・小椋佳『歌紡ぎの会』(1/17)
- ・ULTRAMAN NEW GENERATION THE LIVE スターズ編(1/19)
- ・牛田智大 ピアノ・リサイタル(1/26)
- ・林家たい平・春風亭一之輔・月亭方正 東西特選三人会(2/22)
- ・サンリオキャラクターズ ファミリーミュージカル Song of Life(3/2)
- ・ミュージカル・ミーツ・ウインドオーケストラ(3/8)
- ・SHISHAMO ワンマンツアー2025春(3/9)
- ・春がきた! コンサート2025(3/23)



横山幸雄の『ショパン物語』



Novelbright LIVE TOUR 2024



伊勢正三&イルカ コンサート



2人のビッグショー



ウルフルズ ライブツアー2024



江戸家猫八とゆかいな仲間たち

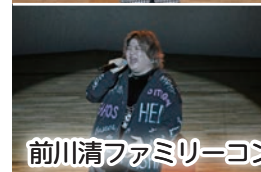




線香花火



さらば青春の光 ステゴロツアー



前川清ファミリーコンサート



森山良子コンサートツアー



小椋佳『歌紡ぎの会』



牛田智大 ピアノ・リサイタル



ULTRAMAN NEW GENERATION THE LIVE



東西特選三人会

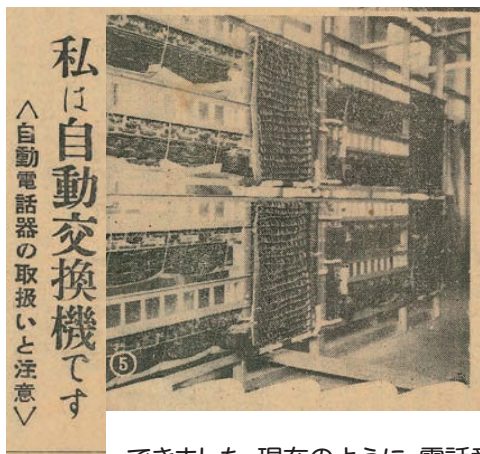
調印式で使したテーブルの実物
(市役所2階に展示)



鳥栖市発足

1954(昭和29)年4月1日に、鳥栖町、田代町、基里村、麓村、旭村の2町3村が合併して鳥栖市が発足。その半月前の同年3月16日、現在の佐賀銀行鳥栖支店の場所にあった鳥栖町役場で『鳥栖市設置申請調印式』(左写真)が行われました。

▼第12号【昭和31年3月1日発行】



電話の自動交換機の紹介記事。電話をかける際、以前は『電話交換手』という職業の人が手作業で回線をつなぐことで、相手と話すことが

できました。現在のように、電話番号を入力すると相手の電話に直接つながるようになったのは、この自動交換機が登場してからです。同記事内では『先ず受話器を外して耳におあて下さい』など電話のかけ方も紹介されています。



◀第41号【昭和33年10月16日発行】

ミルク給食に喜ぶ中学生。1958(昭和33)年10月から市内の中学生にミルク給食を開始。『ミルクで元気な中学生に』をモットーに、生徒たちは毎日大喜びだったようです。

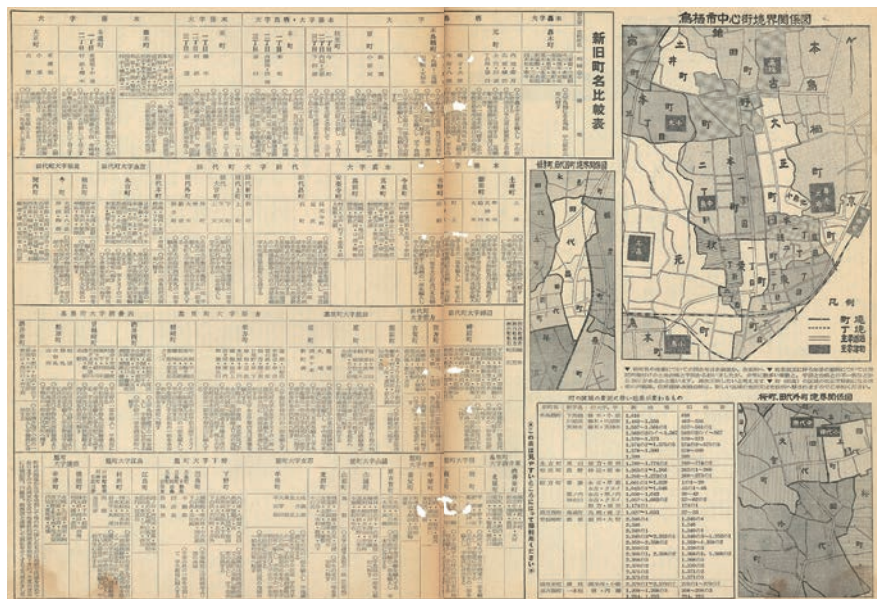


◀第42号

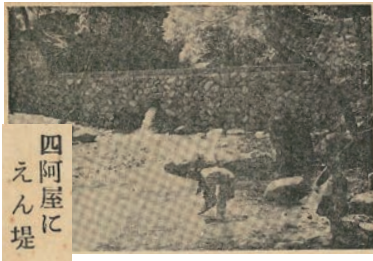
【昭和33年11月10日発行】

1958(昭和33)年12月から『メートル法』実施のお知らせ。現在は、長さはメートル、重さはグラムのように単位がほぼ統一されていますが、以前は、長さは『尺』『間』『インチ』『ヤード』など、重さは『オンス』『匁』『貫』など単位がさまざまで、計量も複雑でした。

▼号外・町名改正特集号【昭和34年3月25日発行】



新旧町名比較表と町の境界図。『県』『市』『町』などと同じく区画の名称の一つで使用していた『大字』の廃止と『町名、区域の改正』が、1959(昭和34)年4月1日に実施されました。大字は、市制施行前の1888(明治21)年のものが残っており、範囲が広すぎる、大字の区域内に他の大字の一部が飛び地として残っているなどの問題がありました。また、町名の改正は、2町3村の合併で発足した市の一体化も考えて実施され、現在ある町名のうち、当時はまだない町名もありますが、この時に決められた町名が現在も使われています。

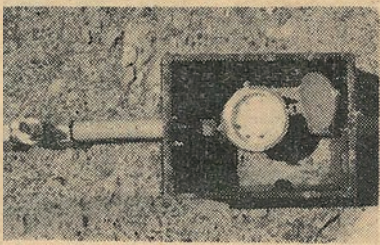


現在の四阿屋(牛原町)

◀ 第61号[昭和35年5月20日発行]

1960(昭和35)年4月に完成した四阿屋のえん堤。『えん堤』とは、土砂を受け止めて、下流に流れる土砂の量を調整する施設で、これにより水域が広くなり、子どもたちが押しかけてにぎわいをみせ始めました。しかし、当時はえん堤上流の水深が2~3メートルあり、注意喚起も頻繁に行われていました。

水道料金 近くメーター制に



◀ 第77号

【昭和36年8月15日発行】

水道料金がメーター制に変わるお知らせ。『5人までの世帯は1カ月200円』などが、以前は定額制でしたが、メーター設置により使用水量に応じて料金が計算されるようになりました。また、それまではどこか一軒の水道工事をする、その地域全家庭の給水が中断されていましたが、メーターと一緒に『止水栓』が付けられたことで、これも改善されました。



◀ 第78号

【昭和36年9月15日発行】

西鉄バス鳥栖営業所開設のお知らせ。同営業所は1961(昭和36)年8月30日に開設し、同年9月1日から

新路線の追加など、新ダイヤでの運行が始まりました。手描きの路線図が時代を感じさせます。



◀ 第95号[昭和38年2月1日発行]

1963(昭和38)年1月15日に行われた第1回祝成人ロードレース大会。現在は17種目ありますが、当時は1種目(10キロマラソン)のみで、中学生を含む26人が参加しました。

この時期の主なできごと

- ‘54(S29) 市制施行 ▼初代市長に海口守三氏 ▼町村会議員を市議会議員として1年延長(100人) ▼工場誘致条例を制定 ▼鳥栖公民(現在の市報とす)発刊
- ‘55(S30) 初の市議会議員選挙(30人)
- ‘56(S31) 公益質屋開業 ▼自動電話に改式 ▼市実験農場開設 ▼日本専売公社鳥栖工場落成
- ‘57(S32) 市営採石場設置 ▼市内小学校の新校区を決める ▼BSゴルフ場オープン
- ‘58(S33) 市土地改良区設立 ▼鳥栖初のスーパーマーケット『銀鳥』開店
- ‘59(S34) 御田舞が県重要無形文化財に指定 ▼全市一区による市議会議員選挙 ▼大字を廃止、新町名に改める ▼大木川水門完成
- ‘60(S35) 市中央公民館落成 ▼国道34号(永吉~轟木間)改良開通
- ‘61(S36) 門司港~久留米間国電開通 ▼西鉄バス鳥栖営業所開設 ▼初の市民体育大会開催
- ‘62(S37) 市公明選挙推進協議会発足 ▼九千部学園完成 ▼鹿児島本線交流電化運転開始 ▼市消防本部、市消防署設置
- ‘63(S38) 第1回祝成人ロードレース大会開催 ▼轟木工業団地分譲開始

▶ 第108号【昭和39年3月1日発行】

交通安全を呼びかける記事。昭和30年代後半から40年代にかけて市内での乗用車の普及が爆発的に進み、市内の交通量も激増。市内で1カ月だけで4人が事故死するなど交通事故も増え、市報でも交通事故の実例紹介や『夜は白っぽい服装で』など交通安全が呼び掛けられました。

また、児童の約半数が、市内でも特に交通量の多い国道3号（1日約2万台）を横断しなければ通学できなかった基里小学校前には、1967（昭和42）年に念願の歩道橋が完成。この歩道橋は市内で初、県内でも二番目に架けられたものでした。

激増する車の交通量



基里小前に完成した歩道橋

◀ 第142号

【昭和42年3月10日発行】

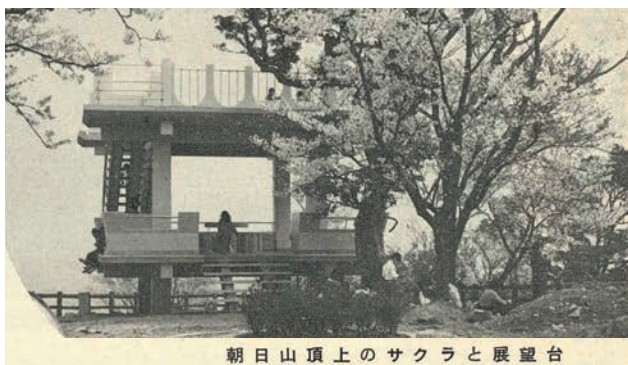


平成31年2月に架け替えが完了した歩道橋「希里橋」

▼ 第139号【昭和41年11月10日発行】



11月1日、しゅん工式があった展望台



朝日山頂上のサクラと展望台

第253号【昭和48年4月14日発行】

1966（昭和41）年11月に完成した九千部の展望台。市内の多くの学校の校歌に登場し、市民に親しまれている『九千部』は、1964（昭和39）年に頂上にテレビ中継基地ができたほか、同年11月に鳥獣保護区に指定されました。展望台建設は『自然公園化計画』の初年度事業として実施され、付近約4ヘクタールはその後、市が国から借り受けた国設キャンプ場になり、駐車場や炊飯所なども設けられました。

また、『朝日山』の展望台は、1973（昭和48）年に完成。1969（昭和44）年度から4年かけて、園路や階段、こどもの遊び場などの公園整備が進められ、現在のような姿になりました。

◀ 第188号【昭和45年8月1日発行】

河内ダムで開催される花火大会の案内。1963（昭和38）年の設計から7年をかけて、1970（昭和45）年に河内ダムが完成し、同年6月に竣工式が行われました。夏の風物詩として市民に親しまれていた鳥栖青年会議所主催の『市民花火大会』は、3年目を迎えたこの年から河内ダムで開催されることに。花火の前には市内のバンドグループによる演奏合戦もあり、当日は西鉄バスが鳥栖駅前から無料のシャトルバスを運行し、賑わいました。



河内ダムで花火大会

8月4日 無料バスを運行

▼第197号[昭和45年12月15日発行]

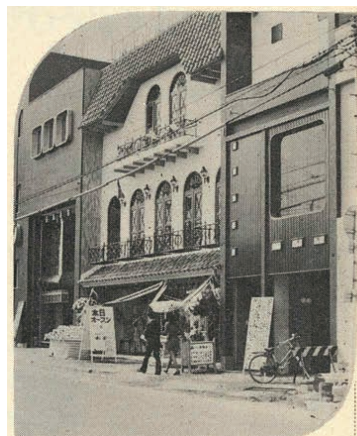
農産物即売会にぎあう



庭石も売れた農産物即売会

市内でできた農産物などの即売会。農業経営の安定と生活水準の向上を図るため、1968(昭和43)年4月に設立された『鳥栖基山農業協同組合』の広場で

開かれ、当時市内で生産が盛んだったみかんやお茶、しいたけ、玉ねぎ、卵などの食料品が多数出品。また、庭造りが流行っており、庭木だけでなく、鑑賞用の鯉や庭石も出品され、人気を呼びました。



美しい町並みに生まれ変わった本通り商店街の一部(4月3日うつす)

◀第229号[昭和47年4月15日発行]

新しくなった本通り商店街の一部。本通筋商店街協同組合が、1971(昭和46)年から商店の近代化に取り組み、商店街約350メートルの両側を全面改築。続々と新店舗が完成しました。

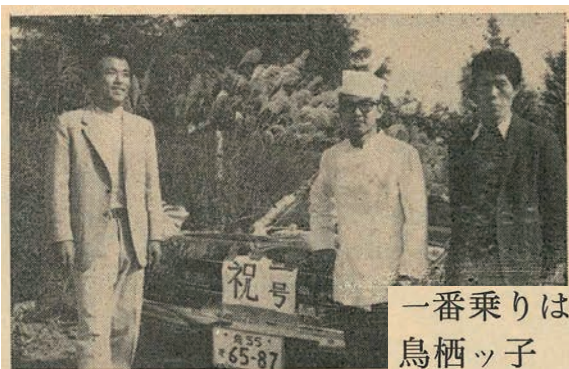


現在の商店街

▼第268号[昭和48年12月1日発行]

1973(昭和48)年11月16日15時に開通した『九州縦貫自動車道』の最初の利用者(公門さん)。市内で飲食店を営む公門さんは「鳥栖のインターが開通するのに、よそもんに一番を取られちゃ、面目なかですよ」と、開通の22日前から待機していたそうです。二番目の利用者は、公門さんの店で働く佐藤さんで3日間待機。

三番目は甘木市(現在の朝倉市)の男性で、遠くは大阪や鳥取などからも“一番乗りマニア”が訪れていたそうです。



一番乗りは鳥栖ッ子

‘64(S39) 市衛生処理場完成

‘65(S40) 第二代市長に安原謙市氏▼九州工業技術試験所(産総研)開所▼市消防庁舎落成

‘66(S41) 県東部工業用水道(第1期工事)完成▼鳥栖商工会館落成

‘67(S42) 公益質屋廃止▼市庁舎落成、各支所を廃止▼製造品出荷額が初の県内1位に

‘68(S43) 交通安全指導員が誕生▼市立図書館開館▼鳥栖基山農業協同組合設立▼市文化連盟発足

‘69(S44) 実験農場廃止▼特別養護老人ホーム『真心の園』開園

‘70(S45) 第三代市長に原忠實氏▼河内防災ダム完成

‘71(S46) 河内小学校廃校▼市文化財保護条例制定▼鳥栖地区広域市町村圏協議会発足

‘72(S47) 企業と初の公害防止協定調印▼市火葬場業務開始▼鳥栖筑紫野有料道路開通▼佐賀競馬場オープン▼鳥栖・三養基地区消防事務組合発足

‘73(S48) 市営採石場閉鎖▼市総合計画ができる▼市土地開発公社発足▼市の木が『モチノキ』に決まる▼九州縦貫自動車道・鳥栖一南関間開通、ジャンクション一部供用開始

元気な「なかよしかい」



▲第279号[昭和49年6月18日発行]

保護者の要望で、1974(昭和49)年6月に鳥栖北小学校で始められた、放課後児童クラブ『なかよしかい』。翌年には鳥栖小学校校区にも開設されました。



老人福祉大会ひらく 市民体育館の使用第1号

▲第324号[昭和51年5月1日発行]

1976(昭和51)年4月に開館した市民体育館。「まずは先輩市民に」との原市長(当時)の考えで、同館使用第1号として市老人福祉大会が開催され、約1,600人のお年寄りが参集しました。

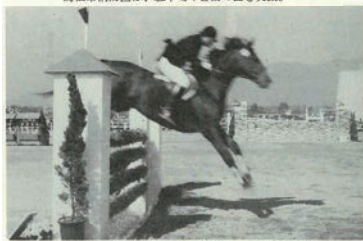
見せた 鳥栖市民の心意気



鳥栖市消防団は、駐車場や警備の面を支援。



公民館で共同炊事も。これは桜町公民館で。



成年障害飛越競技にむむ佐賀県の山根良彦選手。



バレーボール(成年女子)で期待どおり優勝した久光製菓チーム



馬術会場のクラスバンド演奏を受持った鳥栖商高生37人。市民体育館では鳥・鳥工高の64人が演奏しました。



本通町商店街の遠報板と歓迎アーチ(蔵上町で)

▲第337号[昭和51年11月15日発行]

1976(昭和51)年10月24日～29日に佐賀県で開催された『第31回国民体育大会(若楠国体)』の秋季大会の様子。各競技で、地元の大声援を受けた鳥栖市出身選手の活躍がみられました。また、市内ではバレーボール(市民体育館)と馬術(佐賀競馬場)が開催され、全国から選手や監督など約1,500人が参加。市内の宿泊施設だけでは収容できず、民泊引き受け家庭として263世帯が協力しました。また、食事作りや駐車場整備、会場美化などに多くの市民が協力し、大会を盛り上げました。

同年11月6日・7日には、佐賀市で『第12回全国身体障害者スポーツ大会』も開催され、鳥栖市から3選手が出場。卓球やアーチェリーなどで健闘しました。

身障者スポーツ大会で健闘



原市長から励まされる(左から)杉野・森山・松田の各選手。

▲第338号[昭和51年12月1日発行]



新校名は「若葉小」と決まる

◀第354号【昭和52年8月1日発行】

古賀町に新設する小学校の案内。校名は公募し、『古賀』『田代西』など29種が寄せられましたが「地名は避け、こどもの伸びゆく力を表すもの」という基準から、鳥栖北小6年の中島悠子さんが考えた『若葉』に決定されました。若葉小は

1978(昭和53)年4月に開校し、翌年1月には校歌の歌詞も公募。市内外から28編が集まり、同校6年の西村伸広さんの歌詞が採用され、元教諭の古賀哲さんが補作、陶山聰さんが作曲して完成しました。



安永田遺跡から銅鐸鑄型が出土

～九州で初めての発見、考古学上貴重な資料～

◀第415号【昭和55年2月15日発行】

1979(昭和54)年11月に柚比町の安永田遺跡から出土した銅鐸鑄型の写真。弥生時代の国内の文化分布圏の定説をくつがえす貴重な資料として、教科書を書き換える発見とされ、全国から注目を集めました。



久光製薬 日本リーグ入りおめでとう

◀第445号

【昭和56年5月15日発行】

1981(昭和56)年、久光製薬女子バレーボール部(現:SAGA久光スプリングス)が、Vリーグの前身である日本リーグ入りを決定し、同年4月26日に鳥栖商工会館で祝賀会を開催。当時の選手は全員が九州出身者でした。

▶第421号【昭和55年5月16日発行】

1980(昭和55)年4月に完成した市民球場。記念行事の一環でイースタンリーグ『巨人対西武』戦が開催され、市内初開催のプロ野球公式戦に、約3,500人が駆け付けました。

1982(昭和57)年7月には、市民文化会館が開館。こけら落とし以降、市内と三養基・神埼郡の小・中学校、高校が参加した『学校音楽祭』や、市文化連盟主催で数百人の市民が出演した『市民芸能祭』など、ほぼ毎日多彩な催しが開催されました。

待望の市民球場が完成



初のプロ野球に3500人が観戦



▶第472号

(市民文化会館落成記念特集号)

【昭和57年6月23日発行】

この時期の主なできごと

‘74(S49) 市の人口が5万人を突破▼鳥栖北小に『なかよしかい』発足

‘75(S50) 九州縦貫自動車道・古賀ー鳥栖間開通▼初の人生記念樹配布▼市の名木を指定(21樹木、1樹林)

‘76(S51) 上水道通水式、宝満川から市独自の取水開始▼市民体育館落成▼若楠国体開催(鳥栖ではバレーボール、馬術)▼下水道管きょ敷設工事開始▼移動図書館開始

‘77(S52) 市民の森オープン▼鳥栖地区広域電子計算センター完成

‘78(S53) 重症心身障害児(者)施設『若楠療育園』開園▼鳥栖商工団地の分譲開始

‘79(S54) 鳥栖基山農協会館落成▼市民プール落成▼休日救急医療センター業務開始▼安永田遺跡で銅鐸の鑄型片出土

‘80(S55) 市民球場落成

‘81(S56) 久留米・鳥栖テクノポリス誘致決定

‘82(S57) 市民公園庭球場・市民文化会館・中央公民館落成▼都市計画街路・飯田ー蔵上線開通

‘83(S58) 鳥栖高校野球部が甲子園初出場▼鳥栖基山農協でアスパラガス栽培開始

市民の守りはおれたちが！



◀ 第519号 [昭和59年6月1日発行]



▲ 第572号 [昭和61年8月15日発行]

第1回市消防操法大会の様子。市制施行30周年を機に、団員の消防技術の錬磨や団体行動の習熟など、消防体制の確立を目的に始まり、現在も行われている同大会。第1回は、小型ポンプの部で第4分団第1部(牛原町)、ポンプ車の部で第5分団本部(旭)が優勝しました。また、2年後の1986(昭和61)年には県消防操法大会のポンプ車の部で、第2分団本部(基里)が初優勝を果たしています。

▶ 第612号 [昭和63年4月15日発行]

第1回とす弥生まつりで行われた大声大会の様子。叫んでいる言葉は「伸ばそう下水道!」です。

現在の市内の下水道普及率は99.7%(令和4年度)ですが、市内での下水道の一部供用開始は1990(平成2)年3月で、それまで公共下水道はなく、河川の水質汚濁や悪臭が問題になっていました。1975(昭和50)年に公共下水道事業の認可を受けて以降、下水道への市民の理解を深めるためにさまざまな取り組みが行われ、この大声大会もその一つ。また、各家庭のトイレの水洗化工事も必要になることから『下水道貯金』も呼び掛けられていました。



▼ 第643号 [平成元年8月1日発行]

待たれる『安全宣言』 日住病ミヤイリガイの生息調査を展開中

日本住血吸虫病(日住病)の中間宿主『ミヤイリガイ(宮入貝)』の



◎ミヤイリガイの生息調査(7月26日、江島町で)

生息調査の様子。日住病は、九州では筑後川流域でのみみられた風土病で、40度近い高熱や肝硬変などを引き起こし、死亡者も出た病です。市では宮入貝撲滅のため、1951(昭和26)年度から1981(昭和56)年度まで、延べ22万6,000人にわたる用水路のコンクリート化などを行い、この生息調査の翌年1990(平成2)年3月30日に、念願の『安全宣言』が行われました。なお、宮入貝が日住病の中間宿主であることを突き止めたのは、九州医科大学(現在の九州大学医学部)の宮入慶之助教授で、1913(大正2)年に基里村(現在の酒井西町)で新種の貝を発見し、特定。宮入教授の功績を称える学塾碑が、基里運動広場に建立されています。



◎がっちりスクラムを組む谷口久留米市長、山下手市長、山田小郡市長、久保山基山町助役

ジャンクションにつつじ 17,000本
クロスロード協議会 初の共同事業

◀ 第662号 [平成2年5月15日発行]

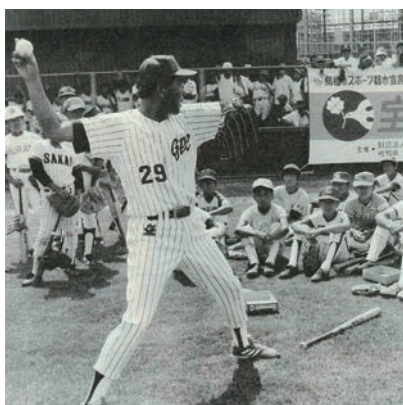
鳥栖市と久留米市、小郡市、基山町でつくる『筑後川流域クロスロード協議会』の記念式典で、がっちりと手をつなぐ当時の首長ら。

1984(昭和59)年に久留米・鳥栖地域がテクノポリス地域(最先端技術の集積都市)として国の承認を受け、鳥栖市では『西部工業団地の造成』『北部丘陵新都市(弥生が丘)の開発』など大型事業が本格化しました。久留米市のほか、小郡市と基山町でも大型住宅団地の造成などが進んでおり、4市町は地域全体を1つの都市圏ととらえた地域づくりを進めるために、県境を越えた連携をスタート。初の共同事業として、1987(昭和62)年に全面供用を開始した鳥栖ジャンクションに、約17,000本のつつじが植えられました。

第694号

【平成3年9月15日発行】

スポーツ都市宣言記念事業『宝くじスポーツフェア・あなたのまちに名球会がやってくる!』の様子。市は、1991(平成3)年8月18日に『スポーツ都市宣言』を行い、同年9月1日に記念事業を実施。プロ野球界往年のスターを一目見ようと、市民球場には約5,000人が駆け付けました。



打者は2,000本安打以上、投手は200勝以上のスーパースターでつくる「日本プロ野球名球会」のメンバー——稲尾和久、江藤慎一、張本勲、土井正博、山崎裕之、平松政次、鈴木啓示、藤田平、堀内恒夫、加藤英司、山田久志、村田兆治の12氏がやってきた!

第715号

【平成4年8月1日発行】

映画『月光の夏』の市内での撮影風景。同映画は、第二次世界大戦終戦間近の1945(昭和20)年、出撃を目前にした2人の特攻隊員が鳥栖国民学校(現在の鳥栖小学校)を訪れ、この世の名残にとグランドピアノでベートーベン『月光』を奏でたという実話をもとに創作されたものです。1992(平成4)年に行われた撮影は、田代小学校や鳥栖山笠など市内でもあり、翌年全国で上映されました。題材になったドイツ製のピアノは、平和の象徴『フツベル』として今も大切に保管されています(現在はサンメッセ鳥栖に展示)。



映画「月光の夏」クラック イン



題字「とす」は
平川朴山氏

第731号

【平成5年4月1日発行】

平川朴山さんの紹介。この731号から市報のデザインが刷新され、題字は、鳥栖市出身の前衛書家で、当時は85歳になり市内で後進の指導をしていた平川さんの書き下ろし。この題字は現在の市報にも使用しています。



第738号【平成5年7月15日発行】

久光製薬(株)鳥栖工場の体育館で開かれた少年サッカー教室の様子。1993(平成5)年7月に、同社がヴェルディ川崎(現在の東京ヴェルディ)のラモス瑠偉さんらを招いて開催し、九州全域から小学生300人が参加しました。

同年8月、鳥栖市はPJMフューチャーズ(サガン鳥栖の前身)のホームタウン誘致を決定し、スタジアム建設などの方針を固めました。

この時期の主なできごと

- ‘84(S59) 鳥栖駅操車場(ヤード)廃止
▼市民憲章・市の花『ハナショウブ』制定▼久留米・鳥栖テクノポリス地域指定
- ‘85(S60) 九州横断自動車道・鳥栖一佐賀大和間開通▼市衛生処理場・し尿処理施設落成
- ‘86(S61) 鳥栖小学校高田分校廃校
- ‘87(S62) 第四代市長に山下英雄氏
▼九州横断自動車道・鳥栖一朝倉間開通、ジャンクション全面供用開始▼社会福祉会館落成▼鳥栖市観光協会発足
- ‘88(S63) 第1回とす弥生まつり開催
▼鳥栖西部工業団地の分譲開始
- ‘89(H01) 初の高校生鳥栖10キロロードレース大会開催▼地域休養施設『とりごえ荘』オープン
- ‘90(H02) 公共下水道一部供用開始
▼日本住血吸虫病の安全を宣言
- ‘91(H03) 鳥栖・三養基地区消防事務組合消防本部・署庁舎落成
▼保健センター(休日救急医療センター、看護専門学校『緑生館』)落成▼スポーツ都市を宣言
- ‘92(H04) シルバー人材センター設立
▼市立図書館移転新築オープン
- ‘93(H05) PJMフューチャーズのホームタウン誘致を決定▼映画『月光の夏』上映

地域住民による福祉ネットワーク



◆第773号[平成7年1月1日発行]

地区社会福祉協議会(地区社協)の設立総会の様子。市社会福祉協議会の『ふれあいのまちづくり事業』の一環で設立された地区社協は、地域住民のネットワークで、地域の実情に即した福祉活動を進めていこうというもので、まず1994(平成6)年12月に田代地区と基里地区で設立。その後、他の地区にも設立され、高齢者の見守り活動など、住民同士による支え合いが行われてきました。

鳥栖スタジアム堂々完成



スタンドに響く1000人のハーモニー



さが国際
交流音楽祭
『ミレニアム・GALA・クラシカ』
華麗な演奏や大合唱で6000人を魅了

◆第809号[平成8年7月1日発行]

鳥栖スタジアム(現在の駅前不動産スタジアム)のこけら落としの様子。鳥栖スタジアムは、1994(平成6)年12月に建設工事が始まり、1996(平成8)年6月16日にオープンしました。こけら落としではサッカー(JFL)の試合が行われ、以降はラグビーやグラウンドゴルフなどのスポーツのほか、野外映写会『キネマDEスタジアム』、人前結婚式『スタジアムウェディング』、音楽祭『ミレニアム・GALA・クラシカ』など、さまざまな分野のイベントが開催されました。

えっ！スタジアムで映画上映



◆第841号[平成9年11月1日発行]

▼第825号[平成9年3月1日発行]



▲第913号[平成12年11月1日発行]

鳥栖フューチャーズの解散とサガン鳥栖の発足。JFLからJリーグへの昇格を目指して1994(平成6)年3月に本拠地を鳥栖市に移したフューチャーズ。スタジアムが完成した1996(平成8)年には、JFL最多の年間観客動員を記録するも、この年も昇格はかなわず、同年11月に主力選手が撤退を表明。財政難によりクラブは解散の危機に陥ります。

そんな中、クラブの存続を信じるサポーターが市内外で署名活動を実施。5万人以上の署名が集まるなどサポーターの熱意がJリーグを動かし、チーム名を変えたうえで、JFLへの残留が決定。1997(平成9)年2月、佐賀県サッカー協会など支援6団体で運営する『サガン鳥栖』が発足し、市民クラブとして再スタートを切りました。



勢ぞろいした「サガン鳥栖」の選手、スタッフ(2/16鳥栖スタジアムで)

市民の支援実らず
フューチャーズ解散
サガン鳥栖で再スタート

▶第847号[平成10年2月1日発行]

鳥栖市出身で、プロ野球・広島東洋カープの緒方孝市選手(当時)が市民球場で開いた『ふるさと少年野球教室』。地域の子どもたち約500人が招待され、緒方さんと5人のチームメイトが講師となり、実技指導が行われました。緒方さんの野球教室は現役を引退した現在も継続して行われており、スポーツを通じた青少年の健全育成や、市のスポーツ文化の発展に大きく貢献しています。



鳥栖出身
広島カープ 緒方選手がちびっ子球児を指導

▼第949号[平成14年5月1日発行]

市役所でVリーグの優勝報告をした久光製薬スプリングアタッカーズ(現在のSAGA久光

久光製薬 スプリングアタッカーズ Vリーグで初優勝



Vリーグで優勝した久光製薬スプリングアタッカーズの選手とスタッフら

スプリングス)の選手たち。1948(昭和23)年に創立し、2024(令和6)年までにリーグ優勝8回を誇る名門・SAGA久光。チームのリーグ初優勝は、2001/02シーズンで、『第8回Vリーグ女子』にてレギュラーラウンドを3位で通過。上位4チームで競うファイナルラウンドで3戦全勝し、栄冠を手に入れました。

▼第959号[平成14年10月1日発行]

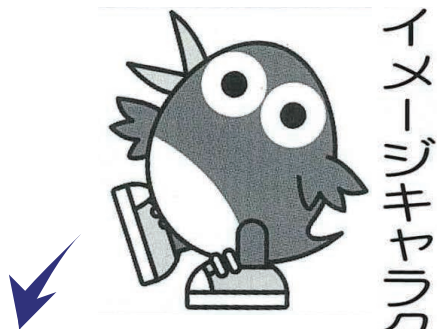
河内町の旧河内小学校跡地で、2002(平成14)年3月に起工、同年9月に完成したNPO法人市村自然塾九州の塾舎。同塾は『生きる力を大地から学ぶ』を基本理念とし、小・中学生に農業体験や自然活動体験、共同生活をする場を提供しています。塾舎完成の翌2003(平成15)年3月には第1期生が入塾し、2004(平成16)年からは市との共催事業『鳥栖市少年少女自然体験学習事業』を行っており、規律・自主性・創造性などの資質を育む場として、子どもたちの健全育成に永年にわたって貢献しています。



市村自然塾九州の塾舎が完成

この時期の主なできごと

- '94(H06) 市の鳥『メジロ』に決定 ▼ 指定ごみ袋・シール制スタート
▼フューチャーズが鳥栖市に移転
- '95(H07) 西日本初の薬の博物館『中富記念くすり博物館』落成
▼河内ダムに斜張橋『風に見える橋』完成 ▼ 定住・交流センター『サンメッセ鳥栖』オープン
- '96(H08) 鳥栖駅東西連絡通路『虹の橋』開通 ▼ 鳥栖スタジアム落成、こけら落としに2万人が入場
- '97(H09) 鳥栖フューチャーズ解散を受けて『サガン鳥栖』発足 ▼ 市陸上競技場が完成 ▼ 県内最大の複合商業施設『ジョイフルタウン鳥栖』がオープン
- '98(H10) 北部丘陵新都市『弥生が丘』住宅分譲開始
- '99(H11) 第五代市長に牟田秀敏氏
▼障害児通園事業専用施設『ひかり園』完成
- '00(H12) 鳥栖市の人口が6万人を突破 ▼ 新鳥栖駅設置正式決定
- '01(H13) JR弥生が丘駅が開業 ▼ 鳥栖ジャンクションにサガンクロス橋完成
- '02(H14) 『市村自然塾九州』が河内小学校跡地に完成 ▼ 第1回とす長崎街道まつり開催
- '03(H15) 鳥栖市女性消防隊を結成



イメージキャラクターが決定



今も子どもたちから大人気

▲第993号【平成16年3月1日発行】

市制施行50周年記念事業で誕生した鳥栖市イメージキャラクター『とっとちゃん』の紹介。2003（平成15）年4月から10月に市のイメージキャラクターを公募したところ、全国から307点の応募があり、優しさや愛らしさを持ち、幅広い年代に親しまれるイメージから選ばれました。

誕生から現在まで市内のさまざまなイベントなどに登場し、会場を和ませているとっとちゃんは、そのイメージ通りの活躍で、子どもたちからも大人気です。

▼第999号【平成16年6月1日発行】

市制施行50周年記念事業の一環で誕生した子どもたちによるミュージカル『鳥栖子どもミュージカル』（現在のキッズミュージカルTOSU）の初回公演。2004（平成16）年5月8日・9日の両日、市民文化会館で行われ、最年少の3歳児を含む124人が出演し、約2,800人の観客を魅了しました。

現在、ミュージカルやドラマなどでも活躍中の俳優・木下晴香さんも所属していた本格派のミュージカルで、市内のイベントなどにも出演し、盛り上げてくれています。



鳥栖プレミアム・アウトレット開業
3万5千人の来場者でにぎわう

▲第995号【平成16年4月1日発行】

2004（平成16）年3月12日に弥生が丘に開業した鳥栖プレミアム・アウトレットの様子。九州最大級のアウトレットモールを目当てに、初日は約3万5,000人が来場し、多くの買い物客でにぎわいました。

店舗数は現在、当初の94店舗から約170店舗まで増えており、開業20年での来場者数は累計で約9,500万人（開業日～2024年1月の延べ人数）。1億人突破も間近の、鳥栖の観光拠点です。

(平成16年) (平成25年)

2004~2013

▶第1139号[平成23年4月1日発行]

市報とす2011(平成23)年4月号の表紙。同年3月12日の九州新幹線全線開通に伴い、鳥栖市の新たな交通拠点・新鳥栖駅が開業しました。前日に発生した東日本大震災を受けて、開業イベントは全て中止となりましたが、6時13分発の一番列車を見ようと早朝から多くの鉄道ファンらが駅を訪れ、新たなスタートの瞬間を写真に収めていました。



▶サガン鳥栖J1昇格記念号

[平成24年1月1日発行]

2011シーズンのJ2リーグで2位となり、2012シーズンから悲願のJ1昇格となったサガン鳥栖。その軌跡をまとめた記念号を平成24年1月号と一緒に発行しました。

また、久光製薬スプリングス(当時)が2012-13シーズンに史上初の五冠を達成。両チームの活躍に沸いた1年でした。



史上初!五冠達成凱旋パレード ▲第1167号[平成25年7月15日発行]

▼第1166号[平成25年6月15日発行]

2013(平成25)年6月1日に新鳥栖駅前に開院した、九州唯一の重粒子線がん治療施設『九州国際重粒子線がん治療センター』(愛称:サガハイマツト)の案内。放射線を用いた『切らずに治す』という



体にやさしい最先端のがん治療法で、同年8月27日から治療が開始され、2025(令和7)年2月末までに1万508人に重粒子線治療を行っています。

この時期の主なできごと

- ‘04(H16) 鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業が完了▼市イメージキャラクター『とつとちゃん』誕生▼鳥栖プレミアム・アウトレット開業▼鳥栖・三養基西部リサイクルプラザ、溶融資源化センター落成▼公式訪問団をドイツ・ツァイツ市へ派遣
- ‘05(H17) 佐賀・福岡で地震、鳥栖市は震度5弱を記録
- ‘06(H18) 勝尾城筑紫氏遺跡が国史跡に指定▼九州シンクロトロン光研究センター開所▼鳥栖貨物ターミナル駅が開業▼グリーン・ロジスティクス・パーク鳥栖分譲開始
- ‘07(H19) 第六代市長に橋本康志氏▼鳥栖筑紫野有料道路が無料化▼市民活動センターを開設
- ‘08(H20) 九州新幹線・筑紫トンネル貫通
- ‘09(H21) 河内町の市滞在型農園施設と市地域休養施設を『とりごえ温泉 栖の宿』として新装開業
- ‘10(H22) 鳥栖駅前周辺整備が完了
- ‘11(H23) 九州新幹線・鹿児島ルート全線開通、新鳥栖駅開業▼サガン鳥栖がJ1昇格
- ‘12(H24) まちづくり推進センター開所▼ドイツ・ツァイツ市と『友好交流都市協定』を締結▼鳥栖市の人口が7万人を突破
- ‘13(H25) 九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)開院▼久光製薬スプリングス(現在のSAGA久光スプリングス)が5冠達成

▼第1181号【平成26年9月15日発行】

2014(平成26)年に完成した『鳥栖市学校給食センター』の紹介。2学期から市内8小学校へ給食の提供を開始しました。同施設は、こどもたちに安全でおいしい給食を提供するとともに、食育の場としての活用を目指し、見学コースや約200人を収容できるランチルームを備えるなど、見て、食べて『食』を学べる場を提供しています。



安全でおいしい給食の
提供を目指した施設

煮炊き調理室



ランチルーム



▼第1189号【平成27年5月15日発行】

市報とす平成27年6月号の表紙。鳥栖市独自で作成した教科書『日本語』による授業が、2015(平成27)年4月から本格スタートしました。初めての授業では『ことわざを楽しもう』をテーマに『急がば回れ』『失敗は成功のもと』『立つ鳥あとをにごさず』など8つのことわざの意味を、絵を使ってクイズ形式で考えたりと楽しみながら学びました。『豊かな日本語を身に付け、鳥栖市を愛し、次世代を担う鳥栖の子どもの育成』を目指して導入した教科としての『日本語』は、当時は全国3例目、九州では初の取り組みとなりました。



図：看板の見方



①避難所 (Shelter)

被災者が一定期間滞在するための場所



②避難場所 (Evacuation area)

災害の危険から緊急に逃げるための場所
小・中学校を指定しています



③対象となる災害種別

これらの災害に対して安全な施設であることを表します



洪水
(Flood)



土石流
(Debris flow)



がけ崩れ
(Landslide)



大規模な火事
(Fire disasters)

▼第1200号

【平成28年4月15日発行】

デザインを一新した避難所の看板の紹介。対象となる災害種別を表記しており、さらに、外国語(英語、中国語、韓国語)とふりがなを併記するなど、この施設が避難所であること、また、どの災害に対応しているのかが誰でも分かるように案内しています。

▶第1238号【令和元年6月15日発行】

鳥栖工業高校土木科3年生の生徒9人が、市民活動団体の四阿屋会と共同で四阿屋遊泳場の整備を行っている様子。生徒たちは、流されてきた石を除去するなど河道を整備し、石積みを作成。こどもたちが遊べる水辺の空間を作り上げました。この活動は、生徒が学校で学んだ土木の知識や技術を生かし、地域に貢献する課題授業の一環で行われました。





▶ 第1254号【令和2年10月15日発行】

2020(令和2)年9月に市役所市民ホールに展示された東京2020オリンピックの聖火リレートーチ。トーチは、オリンピック組織委員会から各都道府県に1本ずつ無償譲渡されたもので、県立有田工業高校出身のデザイナー・吉岡徳仁さんがデザインを手掛けています。より多くの人が見られるように、県内20市町で巡回展示されました。



特別住民票・特別マイナンバーカードを交付

◀ 第1258号

【令和3年2月15日発行】



当日はマスコットたちも出席しました

久光スプリングス(当時)のハルちゃん、サガン鳥栖のウィントス、鳥栖市のとっとちゃんに特別住民票と特別マイナンバーカードを交付しました。鳥

栖市を本拠地とする2つのプロスポーツチームの活躍と鳥栖市のスポーツ文化を一層盛り上げていくため、また、マイナンバーカードの市民への普及促進をPRするため、市役所で開催した交付式に3羽も出席して、市長から直接交付を受けました。



5月8日(月)から新庁舎で業務を開始します
新庁舎が完成しました
問い合わせ 庁舎建設課 TEL:0922-31-1875

【南西側から撮影した新庁舎本館】
本館 地上3階(一部4階・機械室)
鉄筋コンクリート造(RC造)(免震構造)
北館 地上2階
鉄骨造

▲ 第1284号【令和5年4月15日発行】

2021(令和3)年6月に着工し、2023(令和5)年3月に完成した新庁舎の紹介。新庁舎整備の基本理念を『市民の暮らしと安全・安心を支える拠点』と定め、5つの基本方針(『防災拠点となる安全な庁舎』『誰もが利用しやすい庁舎』『機能的かつ経済的な庁舎』『市民が親しみやすい庁舎』『環境に配慮した庁舎』)に基づく機能を有する庁舎となりました。5月7日には落成式を行い、午後から行われた見学会には約300人が来場。待合ロビーや議場など庁舎内を見て回りました。



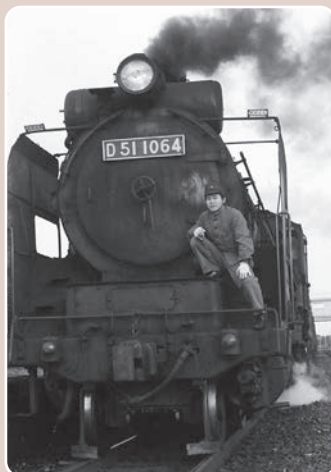
この時期の主なできごと

- ‘14(H26) 市学校給食センターが完成
▼藤木遺跡から青銅器(銅釘)の石製鋳型が全国初出土
- ‘15(H27) 教科『日本語』が市立全小・中学校で本格スタート▼森林基幹道九千部山横断線が開通
- ‘16(H28) 熊本地震発生、被災地へ職員を短期派遣
- ‘17(H29) 鳥栖市と吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町の1市4町で、マイナンバーカードを利用した各種証明書のコンビニ交付を開始
- ‘18(H30) 鳥栖市への進出企業数が200社に到達
- ‘19(R01) 国道3号の拡幅に伴う歩道橋『未来への架け橋〜希里橋〜』の架け替えが完了
- ‘20(R02) 新型コロナウイルス感染症が流行。駅前不動産スタジアムで、医療従事者へ感謝の気持ちを込めたブルーライトアップを実施
- ‘21(R03) ハルちゃん、ウィントス、とっとちゃんに特別住民票、特別マイナンバーカードを交付▼東京2020オリンピックの聖火リレーを鳥栖スタジアム周辺で開催
- ‘22(R04) 鳥栖駅西広場が完成▼市庁舎新築工事現場見学会を開催
- ‘23(R05) 第七代市長に向門慶人氏▼市役所新庁舎が完成▼サロンパス®アリーナが完成し、久光スプリングス(当時)の練習拠点が鳥栖市に▼ゼロカーボンシティを宣言

鳥栖市内の エモい

市民の皆さんからの
風景などを、紹介

①ペンネーム ②撮



- ① 原英機 さん
- ② 1969年頃・鳥栖駅付近
- ③ 僕の青春時代



- ① 松下義孝 さん
- ② 2010年5月・開業前の新幹線線路
- ③ レールの上を歩くこどもが楽しそう



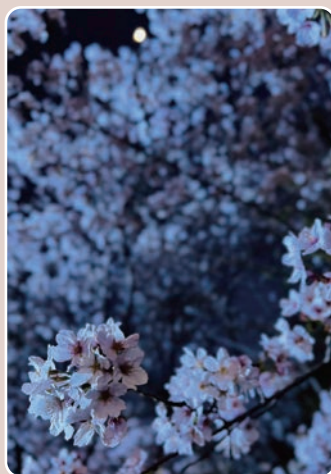
- ① 無記名
- ② 2018年7月・田代八坂神社
- ③ 田代八坂神社奉納演芸会の象徴『青天井』



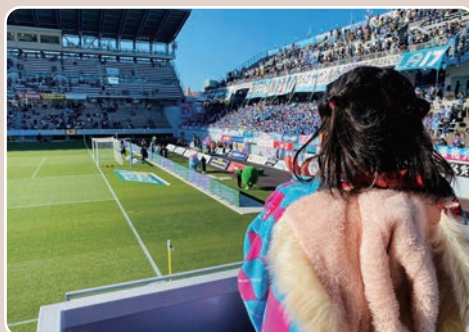
- ① さと さん
- ② 2022年4月・真木町天満神社
- ③ 真木の大藤。きれいで毎年楽しみです



- ① まーくん さん
- ② 2022年8月・中富記
- ③ こどもと昔の薬屋さ



- ① 年功序列写真真部 さん
- ② 2023年4月・田代公園
- ③ 新生活を彩る夜桜



- ① ふーくん さん
- ② 2024年2月・駅前不動産スタジアム
- ③ 生まれる前からサポーター

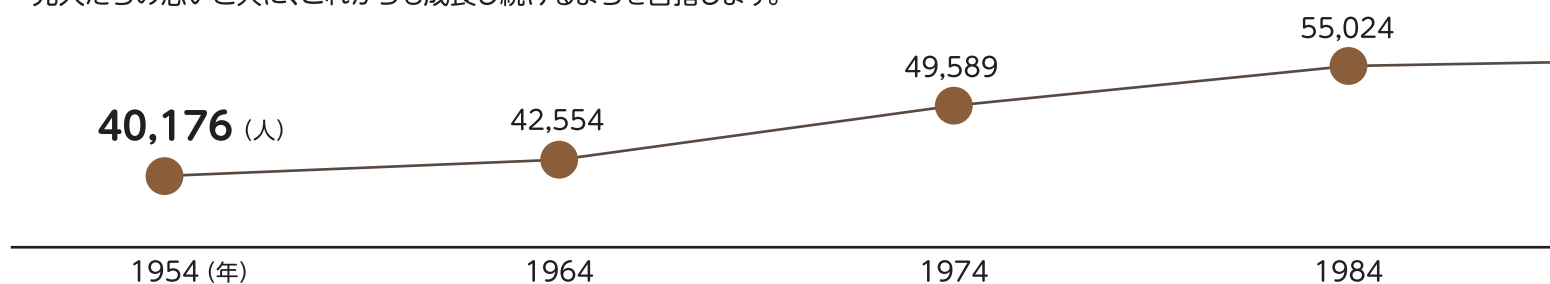


- ① みのり さん
- ② 2024年3月・鳥栖
- ③ ここまではっきりとし

鳥栖市の人口

市制施行以降、人口増を続けてきた鳥栖市。

先人たちの思いと共に、これからも成長し続けるまちを目指します。



心揺さぶる 写真集

寄せられた思い出
します。

影日・場所 ③一言



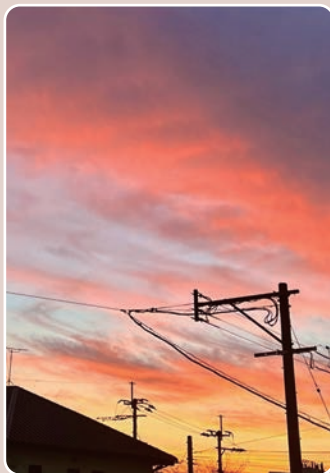
① ぶつつあんさん
② 2018年4月・栖の宿バルコニー
③ おばあちゃんが元気だった頃の思い出です



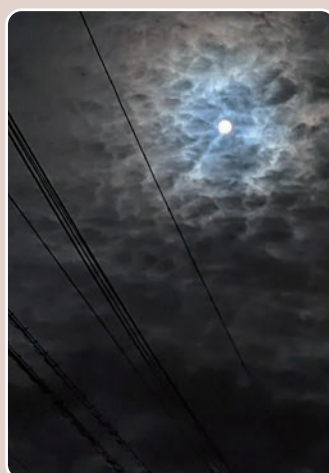
① 大坪信隆さん
② 2021年5月・鉄道分水の碑
③ 昭和鉄道遺産の二つ(1939年設置)



念くすり博物館
んの格好でパシャリ



① 澤さん
② 2022年11月・自宅のベランダから
③ 夕焼け空がとてもきれいでした



① ゆうさん
② 2022年12月・新鳥栖駅付近
③ 海の底から月を見ているようで感動しました



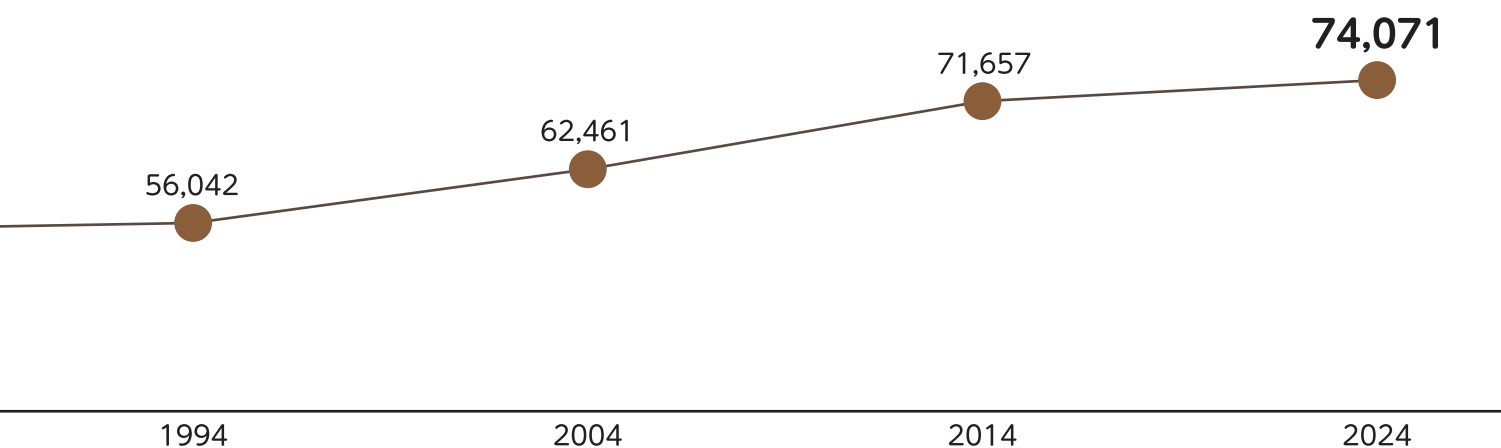
市役所旧庁舎跡地
た虹を見たのは初めて



① もかさん
② 2024年4月・中央公園
③ 友達と見た夜桜がとてもきれいでした



① るんるんさん
② 2024年5月・河内ダムの階段
③ 階段が空へと伸びているように感じました



1954－2024



鳥栖市市制施行70周年記念誌

編集・発行 鳥栖市政策部情報政策課
〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地
TEL0942-85-3513／FAX0942-82-1994
<https://www.city.tosu.lg.jp/>
令和7年3月発行

UD
FONT